

令和7年度第1回相生市総合教育会議会議録

日 時	令和7年5月19日（月）13時30分から14時30分
会 場	市役所3階 議員控室
出席委員	谷口 芳紀 市長 坂本 浩宣 教育長 米澤 聖子 教育長職務代理者 萩原 喜樹 教育委員 小西 毅 教育委員 頭島 恵美 教育委員
出席職員	三宅 淳一 企画総務部長 大西 博之 教育次長（管理担当） 富田 大三 管理課長 土居 哲也 学校教育課長 西山 学 生涯学習課長 佐原 正樹 体育振興課長 高嶋 佳奈 人権教育推進室長 立巳 訓子 管理課副主幹（書記）
傍聴者	なし

1 開会

2 市長挨拶

今週末には初夏の訪れを告げる「ペーロン大会・花火大会」を盛大に開催させていただきます。ペーロンが終われば、厳しい暑さを迎えることとなりますが、委員のみなさまにおかれましては、くれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます。

さて、本日は、令和7年度第1回相生市総合教育会議を開催させていただきましたところ、公私ご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。

今年度、相生市においては、「第6次相生市総合計画」の中間見直し、「第3次地域創生総合戦略」の策定を進めながら、将来にわたり持続可能な行財政運営を進めるため、次期行財政健全化計画策定に取り組み、子どもたちが未来に希望を持って暮らせるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

また、私はこれまで同様、新たな時代の主役となる子どもたちを育てるため、教育に重点を置いたまちづくりを進め、「教育立市」を目指してまいりたいと考えておりますので、委員のみなさまには、これまでと変わらぬ格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この総合教育会議は、今後の「相生の教育」の大きな方向性を決定する会議であり、非常に重要な場でございます。委員のみなさまと忌憚ない意見交換をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。

3 協議事項

(1) 相生市の教育に関する重点施策について

ア 令和7年度の重点施策について

管理課長

令和7年度の重点施策については、「相生市教育振興基本計画」に基づき進めております、令和7年度「相生の教育」の主な事業を提出させていただきました。

(管理課より機構順に事業概要説明)

管理課	「相生市立小中学校適正配置計画推進事業」 (小規模特認校制度導入)
学校教育課	「幼小中一貫教育推進事業」、「心の健康観察事業」
生涯学習課	「相生っ子学び塾プログラミングチャレンジ」
体育振興課	「パラスポーツの推進」 「新たなスポーツ指導者の発掘支援」
人権教育推進室	「いじめ防止に向けた教育、SNS利用による人権侵害に対する啓発」

以上の事業が、令和7年度の主要な事業となります。

これらの事業により、教育振興基本計画の推進を図ってまいります。

教育次長（管理担当）

それでは、ただいまの説明について、ご協議をお願いいたします。また、ご質問がございましたら併せてお受けいたしますので、よろしくお願いいたします。

萩原委員

学校教育の「心の健康観察事業」中に、中学校生徒を対象とした総合質問調査「i-check」とありますが、具体的にどういった調査をするのでしょうか。

学校教育課長

「i-check」は、生徒がクラスにいやすいかどうか、人間関係で困ったことはないか、学校生活の中での悩み事などがあるかどうか、などをアンケートにより可視化できるといった調査です。

萩原委員

いじめ防止の意図も含まれているということでしょうか。

学校教育課長

おっしゃるとおり、いじめ防止や不登校の未然防止のために、子どもの心の状態を把握するために活用できると考えています。

米澤教育長職務代理者

「相生っ子学び塾プログラミングチャレンジ」で、希望する子ども、やってみたいという子どもを育てることで、学校の授業の中でリーダーとしても活躍できると思います。

プログラミング教育が必修化されて何年か経ちます。最初は手探りで始まったと思いますが、現在は授業としてどういったことに取り組んでいるのかお聞かせください。

学校教育課長

学校においては各教科で様々に取り組んでおります。

例えば理科ですと、「人感センサー」と「明るさセンサー」を使用してプログラミングを学習しています。こちらは、実験キットを相生ロータリークラブ様より寄附いただいたもので、各学校で活用させていただいています。

算数では、「Scratch」ソフトを利用し、正多角形を描くプログラムを学習したりしています。

米澤教育長職務代理者

これからの社会を担っていく子どもたちに役立つ授業を行うことは、とても大切だと思います。

谷口市長

生涯学習課の「相生っ子学び塾プログラミングチャレンジ」の中で取得するプログラミング検定は、国家試験でしょうか。どこがテストを行っていますか。

生涯学習課長

国家試験ではなく、株式会社サーティファイという事業者の情報処理能力認定委員会というところが行っている認定試験です。

坂本教育長

初めての事業でどのくらいの申し込みがあるのかと思っていたら、前期後期20名ずつの定員に対して、前期で47名も申し込みがあり、抽選で20名に絞って指導します。後期では抽選で漏れた6年生を優先して指導できたらと考えています。

また、学校教育課の中で出てきた「i - c h e c k」は、学力調査を行っている「東京書籍」が行う調査です。当市が行っています「標準学力調査」ともクロスさせて多方面の分析ができるそうです。

萩原委員

学力調査の中にも質問紙調査がありますが、それとはどういったところが違いますか。

坂本教育長

質問紙調査は学習の習慣、生活習慣についての質問が中心です。似たような質問もあるかと思いますが、「i - c h e c k」は、より多角的に心の状態を調査する形です。

萩原委員

地元地域のクラブ団体で、一昨年からパラスポーツの「ボッチャ」を行っています。

玉入れの「アジャタ」も行いますが、思ったより体力を使いますので、高齢の人は大変であることと準備が大変であるのに対して、「ボッチャ」は非常に好評で、子どもから高齢者までみんなで楽しむことができます。講習を受けて審判になってくれる人もいたので、もっと広がるといいなと思います。体育振興課で「パラスポーツの推進」とありますので、力を入れて推進してください。

谷口市長

ほかにご質問等ご意見等はありませんか。

教育委員

特にありません。

教育次長（管理担当）

それでは、協議事項（１）のＡ「令和７年度の重点施策について」 ご了解いただいたということでよろしいでしょうか。

市長及び教育委員

はい。

教育次長（管理担当）

それでは、以上により令和７年度の事業を進めてまいります。

イ その他（意見交換）

教育次長（管理担当）

続きまして、協議事項（１）イ「その他」に移ります。

本日の総合教育会議は、市長と教育委員会が、教育に関する諸条件整備や重点施策について協議や意見調整を行っていただく会議となっております。最初に、各委員より相生市の教育に対する所感をお聞かせいただき、次に、市長の教育に関する所感をお聞かせいただきます。

その後、市長と各委員による自由意見交換を行っていただきたいと考えております。それでは、米澤教育長職務代理者からよろしくお願いします。

米澤教育長職務代理者

これからの教育について大切なことは何かと考えながら聞いておりました。その中で「子どもたちのなりたい自分の実現」というところがとても良い言葉だと感じました。「DAI CHANアクションプログラム」が学校教育や地域の教育に行き渡って、夢を持つ子どもが「こんなふうになりたい」という思いを具現化し、志を持って育っていくようにと願います。

小西委員

最近の若い人と接する中で、「リーダーになりたくない」「人の上に立つのはリスクだ」と考える人がいます。「みんな平等で一緒」というような育ち方をしてきた中で、自分が上に立つことに戸惑いを見せる姿をよく見ますが、そういうことでは、組織や集団が前に進む力が弱くなってしまうと思います。

指導者の指導、リーダーシップを発揮する機会を与えられることで、人は成長できると考えます。例えばペーロンの各クラブでもリーダーが出てきてチームが増えていくといったことにも繋がると思います。「新たなスポーツ指導者の発掘支援」の中で、そういった場面を作っていただけたらと思いました。

頭島委員

私からは、２点述べさせていただきます。

１点目は、生涯学習課の「相生っ子学び塾プログラミングチャレンジ」についてです。市内の小中学校ではＩＣＴを利用した授業を行うのが当たり前で、一人一人に端末が与えられています。プログラミングを活用した商品やサービスが増えて、社会のＩＴ化が加速する中で、プログラミングの知識やスキルは身に付けておきたい力です。今後、「相生っ子学び塾」から世界で活躍する情報人材が育っていくことを期待します。

２点目は、管理課の「相生市立小中学校適正配置計画推進事業」についてです。地域や保護者の方が矢野小学校の存続を望んで、地域に住む子どもたちにとってより良い教育環境を目指して取り組む「小規模特認校制度」を注視しています。この

取組みは、矢野地区に住んでいる方だけでなく、市内全体の子どもたちにとっても有効な制度であると考えています。「DAICHANアクションプログラム」が目指す「夢の実現に向け 粘り強く生き抜く力」を育てることに繋がりていくと思いますので、応援していきたいと思っています。

谷口市長

それでは、私から今後の教育に期待することについて、考え方を申し上げます。

私は、常々申し上げておりますとおり、まちづくりの基本は人づくりであると考えております。その人づくりの根幹となる教育が、まちの元気づくりの推進に非常に大きな役割を担っております。そういったことから、相生市の今後の教育に期待することについて、3点申し上げたいと思います。

まず1点目は、学校教育分野についてであります。教育立市の実現に向け、新たに策定いただいた「DAICHANアクションプログラム」に基づき、相生の子どもたちのために幼稚園から中学生までの12年間を見通した継続性のある教育の推進をお願いします。

また、全国的に不登校の児童生徒数が増加しており、相生市においても同様の状況となっていることから、子どもたちの問題行動等の未然防止、早期発見・早期支援を図るため、教育委員会が先頭に立って、学校、家庭、地域、関係機関が一体となって取組みを進めていただきたいと思います。

人権教育においては、SNS等による人権侵害の未然防止、解消に向けて、子どもたちだけでなく、大人も含めた市民全体の人権意識向上を図るため、教育機会の充実をお願いします。

2点目は、生涯学習分野において、誰もが生涯にわたり文化芸術やスポーツに親しめるよう更なる事業の充実をお願いします。

まず、芸術文化の振興においては、今年10周年を迎える文化会館では、10周年を盛大に盛り上げていただきたいと思います。また、相生っ子学び塾の新たな講座であるプログラミングチャレンジにおいて、これから世界で活躍できる情報人材の育成をお願いします。

次に、スポーツ分野では、障害のある人となない人が一緒に参加できる機会をつくり、障害者スポーツへの積極的な参加促進を図る取組みをお願いします。

3点目は、市立小中学校適正配置についてであります。学校の在り方が決定された「若狭野小学校」と「矢野小学校」においては、子どもたちや保護者、地域が不安にならないよう、丁寧に意見を聞きながら、新たな取組みへの準備についてよろしくをお願いします。継続協議中の地域協議会においては、地域の方々との十分な協議による合意のもとに進めていただきますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、相生の宝である子どもたちが、夢の実現に向け、粘り強く生き抜く力を持った人となるよう、引き続き「相生の教育」を進めていただきたいと思いますので、今年度も委員のみなさまには、これまでと変わらぬ格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(2) いじめ防止対策について

教育次長（管理担当）

続きまして、協議事項（2）いじめ防止対策について、本年2月に「第1回いじめ防止対策検証委員会」を開催いたしました。本日は、そこでの意見や今後の対応に関する提言についてご説明させていただきます。

学校教育課長

第1回いじめ防止対策検証委員会を令和7年2月20日（木）に開催いたしました。6人の委員出席のもと、教育委員会や学校の取組みについてご意見を頂きました。その意見と意見に対する対応策について、（5）「検証委員の意見に対しての対応策等」にまとめておりますので、主なものをご説明いたします。

まず2項目目「いじめ概要報告の修正について」6点のご意見を頂きました。対応といたしまして、「いじめの概要報告」は、学校がいじめをどのように認知し対応しているかを把握し、教育委員会として助言していく大事な報告となることから、令和7年度より3か月後の状況確認や表現方法などの修正を加え、被害だけでなく加害側のケアも含め、いじめの早期発見・早期対応ができるよう取組みを進めてまいります。

中段の「いじめ防止サミット」の継続に対する意見についてですが、令和7年度も、小中学生の各校代表と教職員の代表による「いじめ防止サミット」を開催いたします。その様子を多くの教職員が共通理解することで、各学校で取組みを行いやすくしていきたいと考えています。

最後の項「いじめを受けた子どものケアの可視化」に関する意見への対応ですが、タブレットを活用した心の健康観察「i-check」や、学期ごとの生活アンケートなどをもとに、子どもの状態把握に努めるとともに、子どもの情報交換を定期的に全職員で行い、その情報を残していくことで可視化を図っていくよう取組みを強化してまいります。

10ページには、令和6年度はいじめ問題対応、取組みの経過等をまとめておりますので、後ほどご清覧願います。

11ページをご覧ください。令和7年度はいじめ問題対応、取組予定ですが、6月には、心の健康観察「i-check」と「いじめに関するアンケート」を実施いたします。8月には、「教職員全体研修会」を実施するとともに「いじめ防止サミット」を開催し、9月以降「いじめ防止サミット」を受け各学校でどのような取組みを行うか検討し実行してまいります。

通年の項になりますが、「SOSの出し方教育の実施」や教育相談、生活アンケートなどは本年度も取り組んでまいります。

教育次長（管理担当）

それでは、先ほどの説明を含め、ご協議をお願いいたします。また、ご質問等がございましたら併せてお受けいたしますので、よろしくお願いいたします。

萩原委員

総合教育会議でいじめについて特に取り上げるということは、今回が初めてだと思います。担当課よりいじめ防止に対する詳しい資料と説明がありましたが、今取り組んでいる様子がよくわかりました。

いじめ防止対策については、完璧な対策が難しいでしょうが、教育委員会、学校現場で日々取り組んでいかなければならないと思います。資料の中にも「いじめ防止基本方針」「いじめ対応マニュアル」「いじめ対応研修」とあり、教育委員会として現場としてできる限りの対策を行っていることがわかります。

毎月の教育委員会定例会では、軽微な問題でも詳しく報告が上がっています。その中で子どもの心のケア、サポートに重点を置いて今後も対策を進めることが重要だと思います。大変難しい問題ですが、よろしくお願いいたします。

今年度の施策の中で、「心の健康観察事業」や「いじめ防止に向けた教育、SNS利用による人権侵害に対する啓発」は、いじめや不登校問題に対して直結する事業でありますし、「パラスポーツの推進」も広い意味で人権教育に関係すると思いますので、意識して進めていただきたいと思います。

米澤教育長職務代理者

いじめに対して詳細に対策されている中でも、「i - c h e c k」による可視化というところがとても良いと思いました。いじめは、見つかりにくく、見えないところがありますので、小さな表情の変化や態度の変化がアンケートの中で可視化され、早期発見に繋がると思います。

小西委員が「指導者になりたい人が少ない」といったことを言われていましたが、「自分が好き」「人が好き」という子どもが減ったような気がしますので、多くの事業の中で自己肯定感を育てていただいて、辛い思いをする子どもが減っていくことを望みます。

教育次長（管理担当）

それでは、協議事項（２）の「いじめ防止対策について」、ご了解いただいたということでしょうか。

谷口市長及び教育委員

はい。

4 その他

教育次長（管理担当）

続いて、「4 その他」としまして、「市町組合立学校における働き方改革の更なる推進について」ご説明させていただきます。

学校教育課長

令和7年度 市町組合立学校における働き方改革の更なる推進についてご説明いたします。議案書13ページをご覧ください。

これは、兵庫県教育委員会が市町組合教育委員会と連携・協働し、学校における働き方改革に取り組めるよう、全県共通目標を定め、オール兵庫としてその取り組みを推進するものです。市町組合教育委員会においては、学校における働き方改革の取組状況の「見える化」と、業務改善に係るPDCAサイクルの構築等の指導助言に努めてまいります。

（1）全県共通目標として、教職員が“子どもたちと向き合う時間”や“授業の質を高める時間”を十分に確保できるよう、まずは時間外在校等時間が月80時間を超える教職員数をゼロにすることを最優先で目指しつつ、すべての教職員が月45時間以内となることを目標としております。（2）全県共通取組としましては、記載の6項目を推進してまいります。

保護者や地域への周知につきましては、別紙配布の県教委作成チラシを保護者へ配付するとともに、教育委員会ホームページにも掲載し広く周知を図ってまいりたいと考えています。

教育次長（管理担当）

ご質問がございましたらよろしくお願いいたします。

米澤教育長職務代理者

教職員のほとんどは、朝早くから夜遅くまで働くことが当たり前とっていましたが、10年ほど前から少しずつ「おかしいな」という現場の声が上がっていました。コロナ禍で行事が短縮されたり見直しされたりしたことで、業務改善について保護者にも少しずつ伝わっていると思います。社会の中でも見方が変わっていく中で、保護者により理解していただくために周知することは重要だと思いますので、アピールしていただきたいと思います。

萩原委員

残業月45時間以内は、恐らく難しいと思います。その中でどうすれば良いのか考えましたが、やはり教職員の意識改革が大切だと思いました。コロナ禍で行事が縮小されたというお話がありましたが、行事の精選が重要だと思います。今までやっていたから今年も来年もするのではなく、本当に子どもたちのために必要かどうか

かを考えて、学校園の特色や地域の特色を活かした行事を精選して、ゆとりを生み出していく必要があるのではないかと考えます。

英語やＩＣＴなど新しい科目が増えて、小さな学校では一人の教員が非常に多くのことをこなす必要がありますが、少しでも改善できるようにお願いしたいと思います。

教育次長（管理担当）

よろしいでしょうか。それでは、本日の協議事項を含め、ご意見等はございますでしょうか。

谷口市長

小西委員がコメントされた「新たなスポーツ指導者の発掘支援」に対して、現状はいかがですか。

坂本教育長

体育協会は５０周年となりましたが、活発に活動をされている団体も高年齢化しています。これから部活動の指導についてお願いしたいのですが、若手の方、新しい方に加わっていただきたいところです。市民の中には指導できる方がいますので、そういった方を発掘していきたいと考えています。単に広報するだけでなく、人づてでも地道に増やしていくことが重要かと思います。

谷口市長

米澤委員が「夢を持つ子どもたち」と言われておりましたが、今開催されている「大阪・関西万博」を見学するということも一つ良いことだと思いますが、子どもたちはどのくらい行っていますか。

坂本教育長

実態調査まではしておりませんが、先日の振替休日に行った子どもが複数あったと聞きました。学校から一斉に行くことはしませんが、夏休みも利用して家族で行っていただきたいと思います。

教育次長（管理担当）

ほかにご意見等はございませんでしょうか。

それでは、本日頂きましたご意見を踏まえ、事務局といたしまして今後の施策に反映すべく検討させていただき、また、予算措置が必要な事項については、関係部課との協議・調整に努めてまいります。

なお、今回は１２月頃開催を予定しております。それでは、本日の協議事項はすべて終了いたしました。

閉会に当たり坂本教育長よりご挨拶をお願いいたします。

坂本教育長

本日は総合教育会議を開催し、いろいろと意見交換いただき、感謝申し上げます。また、谷口市長には、平素よりご多忙の中、行事にご参加いただきありがとうございます。本年度もよろしくお願いいたします。

本日ご説明しました重点施策については、相生市における現在の状況を改善していくため、どれも重要なものであり、現在の教育の課題であると考えます。学校教育においては、楽しい学校、居場所のある学校を目指して、各学校園で教員が取り組み進めています。「DAICHANアクションプログラム」を教員が目指す共通の目標としまして、子どもたちの夢の実現に向け推進していきたいと思います。

今年度は、新たに幼稚園で2名、小学校で3名、中学校で4名の教諭を採用しました。計215名の教職員が指導にあたってくれています。加えて、特別教育支援員や低学年補助員、不登校支援員、カウンセラー、預かり保育指導員、県からの派遣職員など70名超の職員にもお手伝いいただいております。給食では50名の給食員に関わっていただいております。生涯学習課では、学童保育、放課後子ども教室、学び塾の指導者が重要な役割を担っています。

今後、学校の適正化やこども園化を予定していますが、学校の体制を整えることに繋がると思っています。現在、一部では人員が確保できていないところもある状況です。何とか体制を整え、教育に関わる者がモチベーション高く仕事ができるように、教育委員会として支援・整備が必要だと思っています。

教育委員会では、2名の課長が交代しました。新しい観点でそれぞれの課の事業を進めて、「教育立市」と言えるように目指してまいりたいと思います。

市長はじめ教育委員のみなさまには、また良いニュースをお伝えできるように頑張ってまいりますので、引き続きご支援お願いいたします。ありがとうございました。

令和7年度第1回相生市総合教育会議を終了